

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育所の保育全般に参加し、保育技術を習得できるよう指導する。固定クラスでの参加実習を実践することにより、保育を具体的に理解する。指導計画を立案し、責任実習（部分実習・全日実習）を体験する。子どもの個人差について理解を深め、特に発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズの対応について学ぶ。地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。

授業計画

- (1)実習期間 春期…9月の2週間、秋期…2月の2週間（実習園により日程が異なる。）
- (2)実習時間…1日8時間を基本とし12日間、ないしは90時間を確保する。
- (3)実習内容…責任実習、早朝保育、延長保育等、保育活動全般を経験し、保育技術を習得する。

到達目標

- (1) 保育所の保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。
- (2) 家庭と地域の生活実態に触れて、子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援に必要な能力を養うことができる。

履修上の注意

- (1)保育実習Ⅲを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅱ（施設）」の両方を修了していること。
 - ②「保育実習事前・事後指導Ⅲ」の授業に原則として全回出席し、授業担当者の指示を遵守すること。
 - ③保育実習に必要な学内のガイダンスに出席し、すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
- (2)実習中の欠席は特別の場合を除き認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要となる。

予習・復習

- (1)予習
 - ① 実習開始前にオリエンテーションを受け、実習園の概要理解に努める。
 - ② 「保育実習事前・事後指導Ⅲ」の授業を受け準備学習をする。実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
 - ③ 責任実習に向けて、指導案の作成と教材準備等に努める。
- (2)復習

日誌の記述を通して日々の実習の振り返りに努めるとともに、責任実習実施後は反省点を記録し、自身の課題を明らかにする。

評価方法

実習園の評価を中心に、実習生としての姿勢（30%）、援助に関する事項（30%）、保育士への志向（40%）という3つの観点（12項目）から評価する。実習の全日程を終え、実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

「実習のてびき」ならびに「保育実習事前・事後指導Ⅲ」で配布した資料が、実習中のテキストとなる。資料は各自でファイリングをし、参照しながら実習に臨むこと。